



Release

フランクフルト・アム・マイン

2025 年 4 月 29 日

ドイツ銀行、2025 年第 1 四半期において前年同四半期から 39%の増加 28 億ユーロの税引前利益を計上

利益の伸び率は、2 桁の収益の伸び率およびコスト管理の成果を反映

- 税引前利益は、2024 年第 1 四半期から 39%増加し、28 億ユーロ
- 純利益は、前年同四半期から 39%増加し、20 億ユーロ

2025 年通年の目標に沿った主要財務比率

- 税引後平均有形株主資本利益率 (RoTE) ¹は、2025 年の目標である 10%超と比較して、11.9%に上昇
- 費用収益比率は、2025 年の目標である 65%未満の範囲内で、61.2%

2025 年第 1 四半期の収益の成長が、2025 年の収益目標を下支え

- 純収益は、前年同四半期から 10%増加し、85 億ユーロ
- 純資金流入は、プライベート・バンクおよびアセット・マネジメント全体で 260 億ユーロ

2025 年のコストガイダンスに沿ったコスト

- 利息以外のコストは、前年同四半期から 2%減少し、52 億ユーロ
- 営業関連以外のコストは 64%減少し、93 百万ユーロ
- 調整済コストは 2%増加し、51 億ユーロ

2025 年第 1 四半期における自己資本指標およびバランスシート指標は同水準で推移

- 普通株式等 Tier1 (CET1) 資本比率は、変動なく 13.8%
- レバレッジ比率は、2024 年第 4 四半期と同じく 4.6%

信用損失引当金は 471 百万ユーロ

- 不良債権 (ステージ 3) に対する引当金は、前年同四半期から 27%減少し、341 百万ユーロとなり、ポートフォリオは予想どおり正常化
- 正常債権 (ステージ 1 およびステージ 2) に対する引当金は 130 百万ユーロで、マクロ経済見通しの不確実性に関連するオーバーレイを含みます。

すべての事業において税引前利益が前年同四半期から増加

- コーポレート・バンク : 3%増加して 632 百万ユーロ
- インベストメント・バンク : 22%増加して 15 億ユーロ
- プライベート・バンク : 43%増加して 490 百万ユーロ
- アセット・マネジメント : 67%増加して 204 百万ユーロ

チーフ・エグゼクティブ・オフィサーのクリスティアン・ゼーヴィングは、「2025 年第 1 四半期の業績に非常に満足しており、2025 年の目標すべての達成に向けて順調に進んでいます。」とコメントしました。「収益の成長とコスト削減を組み合わせることによって過去 14 年間で最高の四半期利益を達成したことは、当行のグローバル・ハウスバンク戦略が機能していることを示しています。これにより、当行は、地政学およびマクロ経済的環境が急速に変化する中でも、顧客をサポートできる非常に強い立場を築いています。」

ドイツ銀行（銘柄コード XETRA:DBGn. DB/NYSE:DB）は、本日、2025 年第 1 四半期の税引前利益が 28 億ユーロとなり、前年同四半期から 39%増となったことを発表しました。これは純収益の 10%の増加および利息以外のコストの 2%の減少に起因しています。税引後利益は、前年同四半期から 39%増加して 20 億ユーロとなりました。

ドイツ銀行の目標比率は、2024 年第 1 四半期と比較して著しく改善しました。税引後平均有形株主資本利益率（RoTE）¹は、前年同四半期の 8.7%から上昇して 11.9%となり、当行の 2025 年通年の目標に沿って 10%超えを達成しました。税引後平均株主資本利益率（RoE）¹は、前年同四半期の 7.8%から上昇して 10.6%となりました。費用収益比率は、前年同四半期の 68.2%から改善して 61.2%となり、2025 年通年目標である 65%未満と一致しました。希薄化後 1 株当たり収益は、前年同四半期の 0.69 ユーロと比較して 43%増加して、0.99 ユーロに改善しました。

ドイツ銀行の各事業部門は、当行グループの収益性および目標比率に、以下のとおり貢献しました。

- **コーポレート・バンク**：税引前利益は、税引後 RoTE¹が 14.4%、費用収益比率が 62%となり、前年同四半期から 3%増加して 632 百万ユーロとなりました。
- **インベストメント・バンク**：税引前利益は、税引後 RoTE¹が 18.0%、費用収益比率が 49%となり、前年同四半期から 22%増加して 15 億ユーロとなりました。
- **プライベート・バンク**：税引前利益は、税引後 RoTE¹が 8.3%、費用収益比率が 71%となり、前年同四半期から 43%増加して 490 百万ユーロとなりました。
- **アセット・マネジメント**：税引前利益は、税引後 RoTE¹が 22.1%、費用収益比率が 64%となり、前年同四半期から 67%増加して 204 百万ユーロとなりました。

チーフ・ファイナンシャル・オフィサーのジェームス・フォン・モルトケは、「2025 年第 1 四半期において、当行は 2 桁の収益の成長や継続的なコスト管理により、力強い収益モメンタムを実現しました。これは当行の一貫した戦略実行による恩恵を享受しているからです。すべての指標における強固なバランスシート（CET1 資本比率 13.8%を含みます。）は不安定な市場を乗り切る上で理想的な基盤を築き上げ、ドイツ銀行の収益性を今後数年間で次の水準に引き上げるための強固な基盤となっています。」と付け加えました。

グローバル・ハウスバンク戦略の継続的な実行

ドイツ銀行は、2025 年第 1 四半期も引き続きグローバル・ハウスバンク戦略を進展させました。これには、以下が含まれました。

- **収益の伸び率**：2021 年以降、過去 12 カ月間の当行の複合年平均収益の伸び率は、2025 年第 1 四半期末現在で 6.1%となり、5.5%から 6.5%の間としていた当行の目標の範囲内でした。プライベート・バンクおよびアセット・マネジメント全体での運用資産は、2025 年第 1 四半期における 260 億ユーロの純資金流入を含めて、過去 12 カ月間に 950 億ユーロ増加しました。
- **業務効率**：ドイツ銀行は、2025 年第 1 四半期において、25 億ユーロの業務効率化プログラムをさらに進展させました。かかる施策には、ドイツにおける当行のプラットフォームの最適化および特に顧客対応以外の業務における従業員削減が含まれます。2025 年第 1 四半期末現在、効率化施策の完了により実現した、または見込まれる費用削減は 21 億ユーロに達し、これはプログラム全体の削減目標額の約 85%を占めています。これには、当行がこれまでの期間における再編、その他の従業員削減施策、雇用管理および社内異動による費用削減が寄与し、これまでに実現した約 19 億ユーロの削減額が含まれています。

- **資本効率**：ドイツ銀行は、2025 年第 1 四半期において、データおよびプロセスの改善ならびに証券化取引によりさらに 40 億ユーロの RWA を減少させました。その結果、資本効率化施策による RWA 相当額の利益は累計 280 億ユーロに達し、既に、2025 年末までに 250 億ユーロから 300 億ユーロとする目標範囲の上限に近い水準となりました。

収益：2 桁の伸び率は戦略の実行を反映

純収益は、前年同四半期から 10%増加して 85 億ユーロとなり、2025 年通年で約 320 億ユーロとする当行の収益目標に沿っています。当行の各ビジネスにおける収益の推移は、以下のとおりです。

- **コーポレート・バンクの純収益**は、前年同四半期から実質的に変動なく、19 億ユーロとなりました。これは預金高の増加ならびに手数料およびフィー純収益の 6%の増加は、預金マージンが前年同四半期よりも正常化したことにより相殺されたためです。コーポレート・トレジャーリー・サービスの収益は、預金高の増加が預金マージンの減少を相殺したことにより、前年同四半期から 1%増加して 11 億ユーロとなりました。機関投資家向けサービスの収益は、証券サービスの収益の伸びが機関投資家向けキャッシュ・マネジメントにおける預金マージンの減少を上回ったことにより、3%増加して 473 百万ユーロとなりました。ビジネス・バンキングの収益は、預金マージンの正常化により 9%減少して 321 百万ユーロとなりました。ドイツ銀行は、ユーロマネーの 2025 年トレード・ファイナンス・サーベイにおいて、「大企業向けワールド・ベスト・トレード・ファイナンス・バンク」に、また、クリシル・コアリション・グリニッジの 2025 年サーベイにおいて、「ドイツのコーポレート・キャッシュ・マネジメント最優秀銀行」に選ばれました。
- **インベストメント・バンクの純収益**は、2024 年第 1 四半期から 10%増加し、34 億ユーロとなりました。債券および為替 (FIC) の記録的な収益は、レバレッジド・デット・キャピタル・マーケットにおける特定のポジションの一部売却および評価減の影響を含むオリジネーションおよびアドバイザリー (O&A) の収益の減少により一部相殺されました。このポジションの前年同四半期比での影響²を除くと、O&A の収益は、ほぼ横ばいの手数料市場環境において前年同四半期から 5%増加しました（出所：ディールロジック）。債券および為替 (FIC) の収益は、17%増加して 29 億ユーロとなりました。これは、市場活動の活発化ならびに顧客エンゲージメントの増加を反映した金利および外国為替の両業務における堅調な成長に牽引されたものです。資金調達業務における収益も増加しましたが、これはターゲット・バランスシートの展開により純利息収益が増加したことが反映されています。オリジネーションおよびアドバイザリーの収益は 8%減少して 460 百万ユーロ（前述の評価減を調整したベースでは 5%の増加）となり、債券オリジネーションの収益の前年同四半期比 21%の減少が、アドバイザリーの収益の前年同四半期比 22%の増加および株式オリジネーションの収益の増加を上回りました。
- **プライベート・バンクの純収益**は、前年同四半期から 3%増加して 24 億ユーロとなりました。利息以外の収益は、戦略に沿った投資商品収益の堅調な成長により増加しました。手数料およびフィー純収益は 5%増加して 832 百万ユーロとなり、一方、純利息収益は 2%増加して 15 億ユーロとなりました。パーソナル・バンキングの収益は、貸出金収益の減少が投資商品収益および預金収益の増加を上回ったことに伴い、前年同四半期から 2%減少して、13 億ユーロとなりました。ウェルス・マネジメントおよびプライベート・バンキングの収益は、投資商品収益の増加に牽引され、前年同四半期から 8%増加して 11 億ユーロとなりました。運用資産は、純資金流入 60 億ユーロが市場の動向および為替レートの変動による 80 億ユーロのマイナスの影響によって相殺されたことに伴い、2025 年第 1 四半期末現在において 6,320 億ユーロとなりました。プライベート・バンクはユーロマネーの「2025 年グローバル・プライベート・バンキング・アワード」において、「ワールド・ベスト・フォー・アントレプレナーズ」、「ワールド・ベスト・フォー・コマーシャル・リアル・エステート・アンド・ノース・アメリカ・ベスト・インターナショナル・プライベート・バンク」を含む 15 部門で受賞しました。

- **アセット・マネジメントの純収益**は、前年同四半期から 18%増加し、730 百万ユーロとなりました。マネジメント・フィーは、主にアクティブ商品およびパッシブ商品の両方における平均運用資産の増加を反映して、8%増加して 639 百万ユーロとなりました。運用報酬および取引手数料は、オルタナティブ・インフラストラクチャー・ファンドからの運用報酬の継続的な認識を反映し、前年同四半期から 2 倍超に増加して 37 百万ユーロとなりました。一方、その他の収益は、保証の公正価値におけるプラスの変動およびトレジャリー資金調達費用の減少を反映し、54 百万ユーロとなりました。純資金流入は 200 億ユーロとなり、これは主に戦略に沿ったパッシブ商品およびキャッシュによる追加の資金流入によって牽引されました。運用資産は、2025 年第 1 四半期末現在において 1 兆 100 億ユーロとなり、2024 年第 4 四半期末現在から 20 億ユーロ減少し、2024 年第 1 四半期末現在からは 680 億ユーロ増加しました。

営業関連以外のコストが正常化し、2025 年通年の見通しに沿ったコスト

2025 年第 1 四半期の**利息以外のコスト**は、前年同四半期から 2%減少して、52 億ユーロとなり、当行の 2025 年通年の見通しに沿っています。この推移は主に、営業関連以外のコストが予想どおり前年同四半期から大幅に削減されたことを反映したものです。

調整済コストは 2%増加し、51 億ユーロとなり、これには 2025 年第 1 四半期の当行の株価上昇により増加した株式報酬の要素に左右される報酬関連費用の増加が含まれます。2025 年第 1 四半期末現在の**従業員**（常勤相当）は、2025 年第 1 四半期において 66 名減少し、2024 年第 1 四半期末現在からは 636 名減少し、89,687 名となりました。これは、一部は当行の業務効率化プログラムに関連して、離職者が 2025 年第 1 四半期における戦略的雇用および内部雇用を上回ったためです。

営業関連以外のコストは、2024 年第 1 四半期の 262 百万ユーロから 64%減少し、93 百万ユーロとなりました。これには、前年同四半期の 166 百万ユーロから減少して 26 百万ユーロとなった訴訟費用ならびに前年同四半期の 95 百万ユーロから減少して 68 百万ユーロとなった再編および退職費用が含まれます。

信用損失引当金は、マクロ経済の不確実性に関連するオーバーレイによって相殺されたポートフォリオの正常化を反映

信用損失引当金は、2024 年第 1 四半期の 439 百万ユーロおよび 2024 年第 4 四半期の 420 百万ユーロと比較して 471 百万ユーロとなり、貸出平均残高の 39 ベーシスポイントとなりました。ポートフォリオのパフォーマンスが予想どおり推移したため、不良債権（ステージ 3）に対する引当金は 341 百万ユーロとなり、前年同四半期から 27%減少し、2024 年第 4 四半期から 18%減少しました。正常債権（ステージ 1 およびステージ 2）に対する引当金は 130 百万ユーロとなり、これには米国の地政学的見通しおよびマクロ経済の見通しの不確実性に関連するオーバーレイならびに 2025 年第 1 四半期のマクロ経済の影響、ポートフォリオの影響およびモデル変更が含まれます。これは、2024 年第 4 四半期のステージ 1 およびステージ 2 に対する引当金が 6 百万ユーロ、前年同四半期の純戻入れが 32 百万ユーロであったことと比較されます。

堅調な自己資本比率が株主への配当および事業成長を支える

2025 年第 1 四半期の**普通株式等 Tier1 (CET1) 資本比率**は、2024 年第 4 四半期から変動なく、2024 年第 1 四半期末現在の 13.4%からは上昇して、13.8%となりました。堅調な留保利益を通じた有機的な自己資本の創出は、主にその他 Tier1 資本証券（AT1 証券）のクーポン支払いの控除および配当性向 50%を目指すとする当行のコミットメントを反映した将来の資本分配の控除により相殺されました。

2025 年第 1 四半期末現在の**レバレッジ比率**は、2024 年第 4 四半期末現在から変動なく、前年同四半期の 4.5%からは上昇し、4.6%となりました。**レバレッジ・エクスポージャー**は、2024 年第 4 四半期末現在の 1 兆 3,160 億ユーロおよび前年同四半期の 1 兆 2,540 億ユーロと比較して、1 兆 3,020 億ユーロとなりました。

2025 年 5 月 22 日に開催されるドイツ銀行の年次株主総会に向けて、取締役会および監査役会は、2024 会計年度について前会計年度から 50%増配の 1 株当たり 0.68 ユーロの現金配当の支払いを提案しています。これにより、最近開始された当行の 750 百万ユーロの自社株の買戻しプログラムを含め、2025 年の資本分配合計は 21 億ユーロとなります。

2025 年第 1 四半期末現在の**流動性カバレッジ比率**は、2024 年第 4 四半期末現在の 131%と比較して 134%となり、規制要件である 100%を上回り、余剰額は 580 億ユーロとなりました。2025 年第 1 四半期末現在の質の高い流動性資産は、2024 年第 4 四半期末現在の 2,260 億ユーロと比較して、2,310 億ユーロとなりました。安定調達比率は、2024 年第 4 四半期現在の 121%と比較して、当行の目標範囲である 115%から 120%の範囲内の 119%となり、余剰額は 990 億ユーロとなりました。

2025 年第 1 四半期末現在の**顧客預金**は、2024 年第 4 四半期から実質的に変動なく、2024 年第 1 四半期の 6,350 億ユーロからは増加して、6,650 億ユーロとなりました。

サステナブル・ファイナンス：2020 年以降の取引高³は 3,890 億ユーロに到達

2025 年第 1 四半期の**サステナブル・ファイナンスおよび ESG 投資の取引高 (DWS を除きます。)**³は 160 億ユーロで、2020 年 1 月 1 日以降の累積取引高は 3,890 億ユーロとなり、2024 年末現在から 3,730 億ユーロ増加しました。

2025 年第 1 四半期におけるドイツ銀行の各事業部門は、以下のとおり貢献しました。

- **コーポレート・バンク**：サステナブル・ファイナンスの取引高は 40 億ユーロとなり、2020 年 1 月 1 日以降のコーポレート・バンクの累積取引高を 740 億ユーロに引き上げました。
- **インベストメント・バンク**：サステナブル・ファイナンスの取引高、サステナブル関連資本市場発行高およびマーケット・メイキングで 120 億ユーロを提供し、2020 年 1 月 1 日以降の累積取引高は 2,360 億ユーロとなりました。
- **プライベート・バンク**：ESG 運用資産および新規貸出しは 10 億ユーロ増加し、2020 年 1 月 1 日以降の累積取引高は 690 億ユーロとなりました。一任ポートフォリオ運用およびグリーンボンドの純資金流入は 21 億ユーロとなり、2022 年第 1 四半期以来の最高額となりましたが、市場の下落による影響により相殺されました。

2025 年第 1 四半期における主な取引は、以下のとおりです。

- コーポレート・バンクは、ポルスカ・グルーパ・エネルゲティチュナ S.A. (PGE) への 29 億ユーロのノンリコース・プロジェクト・ファイナンスにおいて、主幹事を務めました。発電容量 1.5 ギガワットの「バルティカ 2」は、PGE およびオーステッドの共同開発により現在ポーランドで計画されている最大規模の洋上風力発電プロジェクトであり、約 2.5 百万世帯の電力需要を満たすグリーン電力を生産する予定です。
- インベストメント・バンク (O&A) は、金融機関による発行として初めて EU グリーンボンド基準に準拠したものとなる、ABN アムロの 6 年物上位優先 EU グリーンボンドにおいて、共同主幹事を務めました。調達資金は、グリーンビルディングおよび再生可能エネルギー・プロジェクトに関して、EU タクソノミーに完全に準拠しています。
- インベストメント・バンク (FIC) は、ベナン共和国への、最大 507 百万ユーロの無担保分割償還型タームローン・ファシリティ（最終償還期限は 15 年）に関して、単独主幹事および貸手を務めました。この貸付は、国際開発協会およびアフリカ貿易投資開発保険機構が提供する一次損失／二次損失を保証する仕組みの恩恵を受けており、革新的な金融商品を活用してベナン共和国の経済成長および社会的進歩を支援しています。

グループ業績概要

特記表示がない限り 単位:百万ユーロ	2025 年 3 月 31 日に 終了した 3 カ月間	2024 年 3 月 31 日に 終了した 3 カ月間	変動額	増減 (%)
純収益合計:	8,524	7,779	745	10
内:				
コーポレート・バンク	1,866	1,878	(12)	(1)
インベストメント・バンク	3,362	3,047	316	10
プライベート・バンク	2,439	2,376	62	3
アセット・マネジメント	730	617	113	18
コーポレートおよびその他	127	(139)	266	N/M
信用損失引当金	471	439	32	7
利息以外のコスト	5,216	5,305	(89)	(2)
税引前利益(損失)	2,837	2,036	801	39
利益(損失)	2,012	1,451	562	39
ドイツ銀行株主に帰属する利益 (損失)	1,775	1,275	501	39
普通株式等 Tier1 資本比率 ⁴	13.8%	13.4%	0.4ppt	N/M
レバレッジ比率 ⁴	4.6%	4.5%	0.2ppt	N/M

N/M: 意味のある比較不能

過去年のセグメント情報は、現在のセグメント区分に合わせて表示されています。

1 本項目およびその他の GAAP 以外の財務的測定尺度の詳細については、2025 年第 1 四半期補足財務データ (英文) の 15 頁から 21 頁の「GAAP 以外の財務的測定尺度」および 2025 年 3 月 31 日付の収益報告書 (英文) の 50 頁から 54 頁の「GAAP 以外の財務的測定尺度」をそれぞれご参照ください。

2 2025 年第 1 四半期の (90) 百万ユーロおよび 2024 年第 1 四半期の (22) 百万ユーロ

3 コーポレート・バンク、インベストメント・バンク、プライベート・バンクおよびアセット・マネジメント

4 期末現在

ESG 分類

ドイツ銀行は、サステナブル関連ファイナンスおよび ESG 投資の取引を「Sustainable Finance Framework (サステナブル・ファイナンスのフレームワーク) (英文) および「Deutsche Bank ESG Investments Framework (ドイツ銀行の ESG 投資のフレームワーク) (英文) (https://investor-relations.db.com から入手可能です。)において定義しました。当行の目標における累積の定義に鑑みて、フレームワークに照らした検証が報告する四半期末までに完了できない場合には、取引高は翌四半期以降において検証が完了次第報告されます。アセット・マネジメントにおける DWS の ESG 商品分類の詳細については、DWS の 2024 年の年次報告書 (英文) の「Summarised Management Report - Sustainability Statement - General Information - Sustainability in Our Product Suite and Investment Approach - Our Product Suite (マネジメント・レポートの要約 - サステナビリティ・ステートメント - 概要 - 当社の商品および投資アプローチにおける持続可能性 - 当社の商品)」をご参照ください。

ドイツ銀行の事業の 2025 年第 1 四半期の業績の詳細は、2025 年 3 月 31 日付の収益報告書 (英文) により入手可能です。

ドイツ銀行について

ドイツ銀行は、個人顧客、中小企業、事業法人、各国政府および機関投資家に対し、リテール・バンキング、プライベート・バンキング、コーポレート・バンキング、トランザクション・バンキング、融資、資産運用の商品およびサービスならびに焦点を絞った投資銀行業務を提供しています。ドイツ銀行は、欧州に深く根ざしつつグローバル・ネットワークを有するドイツ有数の銀行です。

将来の事象に関する記述

本リリースには、将来の事象に関する記述が含まれています。将来の事象に関する記述とは、歴史的事実ではない記述であり、当行の考えおよび予想ならびにその基礎となる前提が含まれます。これらの記述は、ドイツ銀行の経営陣が現在入手可能な予定、推定および計画に基づいています。したがって、将来の事象に関する記述は、あくまで当該記述がなされた日現在ののものであって、当行はこれらの記述に関して、新しい情報または将来生じた事象があっても、これを更新して公表する責任は負いません。

将来の事象に関する記述は、その性質上リスクおよび不確実性を含みます。したがって、いくつかの重要な要因が作用して、実際には将来の事象に関する記述に含まれるものとは大きく異なる結果となる可能性があります。

これらの要因には、ドイツ、ヨーロッパ、米国およびドイツ銀行が収益の相当部分を上げ、資産の相当部分を有するその他の地域における金融市場の動向、資産価値の推移および市場のボラティリティ、借り手または取引相手による将来の債務不履行、当行の経営戦略の実施、当行のリスク・マネジメントの方針、手続および方法への信頼性ならびに米国証券取引委員会（SEC）への情報開示に関連するリスク等が含まれます。このような要因については、SEC に提出した当行の 2025 年 3 月 13 日付 Form 20-F の「リスク・ファクター」の表題のもとで詳しく記載されています。当該文書の写しは、請求により入手可能であり、また www.db.com/ir からダウンロードすることができます。

会計の基準

上記の当行の業績は、国際会計基準審議会（IASB）により発行され、欧州連合（EU）が支持している国際財務報告基準（IFRS）に準拠して作成されています。これには、2020 年以降、満期到来前の預金に対するポートフォリオ公正価値ヘッジ会計および期限前弁済条項付固定金利モーゲージの適用（以下「EU カーブアウト」といいます。）が含まれます。EU カーブアウトに基づく公正価値ヘッジ会計は、各テナーのプールにおける金利のプラス・マイナス両方の動きに対する会計エクスポージャーを最小限に抑えることで、トレジャリーの活動により報告される収益のボラティリティを削減するために用いられます。

2025 年 3 月 31 日に終了した 3 カ月間について、EU カーブアウトの適用は、当行の税引前利益に 391 百万ユーロ、利益に 280 百万ユーロのプラスの影響をもたらしました。2024 年 3 月 31 日に終了した 3 カ月間について、EU カーブアウトの適用は、当行の税引前利益に 403 百万ユーロ、利益に 287 百万ユーロのプラスの影響をもたらしました。当行グループの規制自己資本およびその比率についても、EU カーブアウトを伴う IAS 第 39 号を用いて報告しています。2024 年 3 月 31 日現在については、EU カーブアウトの適用は、CET1 資本比率に約 33 ベーシスポイントのマイナスの影響をもたらしたのに対し、2025 年 3 月 31 日現在については、約 60 ベーシスポイントのマイナスの影響をもたらしました。いずれの期においても、EU カーブアウトの正味の影響は、ヘッジ対象のポジションの時価評価の変動およびヘッジ手段によって、プラスにもマイナスにもなる可能性があります。

GAAP 以外の財務的測定尺度の使用について

本リリース、および当行が発行しているまたは発行する可能性があるその他の書面には、GAAP 以外の財務的測定尺度が含まれています。GAAP 以外の財務的測定尺度とは、当行の過去もしくは将来の経営成績、財政状態またはキャッシュ・フローの尺度で、当行の財務諸表において IFRS に従って計算および表示された最も直接的に比較可能な尺度から、場合により、これに含められている（または除外されている）金額を除外する（または含める）調整を行うものです。当行の GAAP 以外の財務的測定尺度およびこれと最も直接的に比較可能な IFRS の財務的測定尺度の例は、以下をご参照ください。

GAAP以外の財務的測定尺度

最も直接的に比較可能なIFRSの財務的測定尺度

各部門におけるドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）、
各部門におけるドイツ銀行株主およびその他の資本構
成要素に帰属する利益（損失）

利益（損失）

主要な銀行業務セグメントの純利息収益

純利息収益

通貨換算の影響を調整したベースでの収益

純収益

調整済コスト、通貨換算の影響を調整したベースでのコ
スト、営業関連以外のコスト

利息以外のコスト

純資産（調整済）

資産合計

有形株主資本、平均有形株主資本、有形帳簿価額、平均
有形帳簿価額

株主資本合計（帳簿価額）

税引後平均株主資本利益率（AT1証券のクーポン控除後
のドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）に基づく）、
税引後平均有形株主資本利益率（AT1証券のクーポン控
除後のドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）に基づく）

税引後平均株主資本利益率

基本的流通株式1株当たり有形純資産、基本的流通株式
1株当たり資産

流通株式1株当たり資産

通貨換算の影響を調整したベースでの収益およびコストは、ユーロ以外の通貨建てで発生または被った過去の会計期間の収益およびコストを、当該会計期間における外国為替レートによりユーロに換算することで計算します。これらの調整済の数値およびそれに基づく過去の会計期間との比較によるパーセンテージの変化は、基礎となる取引高の状況についての情報を提供することを意図しています。

調整済コストは、IFRS に基づく利息以外のコストから、(i) のれんおよびその他の無形資産の減損、(ii) 正味の訴訟費用ならびに (iii) 再編および退職費用（併せて**営業関連以外のコスト**と総称します。）を控除して計算されます。